

◎第3期中期目標の検討に当たっての論点整理について

○ 第1期→第2期

- ・「グローバル化」を強調
- ・大学からの提案キーワードは『『人間力』を養う！』
※その後、評価委員会での議論を受けて「自立した人間としての総合力」等文言を調整している。

○ 第2期中に表出した課題など

評価委員会による評価（第2期の暫定評価）

<プラス要素>

教育環境の整備（委員意見：コモンズ等学内学習環境の整備が進んだことを評価）
就職支援（委員意見：きめ細かな支援体制を敷き、長年にわたり高い就職率を維持）
情報公開（委員意見：効果的・効率的な広報体制を確立したことを評価）
コミュニティプランナー（委員意見：県立大学として重要な課題への挑戦であり、成果もあった）

<マイナス要素>

外部資金獲得（委員意見：適切な目標額について、第3期中期計画において再検討が必要）
留学生・大学院生の獲得（委員意見：事業構想、食産業各研究科の定員未充足が続いている）

法人、県が認識している課題

入学者の確保（18歳人口減少）、学生の学力向上・主体的な学習、社会で期待される学生の能力、
国際交流（留学生の確保、アンバランスな学生交流〔海外派遣数 > 受入れ数〕）、
大学院改革（入学者増加つながるカリキュラム、学群教育との連続性、など）
評価項目の絞り込み・見直し（年度評価の効率的な実施〔評価委員会評価と認証機関評価〕）、
など

○ 国や他大学等の動向

国の動向

中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」掲載事項など：

Society5.0、地域連携プラットフォーム（仮称）、リカレント教育

その他：高等教育の修学支援新制度、大学入試制度改革（大学入学共通テスト等）、SDGs、

他大学等の動向

他の公立大学で第3期中期目標に取り入れている項目：情報管理体制の整備、働き方の見直し等
新潟食料農業大学（2018）、福島大学農学群食農学類（2019）の創設
認証評価機関による評価（大学教育質保証・評価センターの参入）

○ 設置者としての期待

県内就職率の向上、デザイン研究棟・コモンズ等の効果的な活用、自己収入の確保（寄付金〔ネクストリーダーズ基金〕など）、施設設備の老朽化に対応した保全・長寿命化対応、震災復興への寄与（県震災復興計画期間後の取組）、など

○ 第3期が始まる令和3年度は・・・

学群第1期卒業生が大学院へ進学（→ 大学院改革）

宮城県震災復興計画期間（H23～H32の10年間）終了後（→ ポスト復興）

第3期目標の
方向性（論点）

① 教育

学生が生涯にわたり主体的に学ぶ力の涵養（←アクティブラーニングなど）

18歳人口の減少への対応（←入学者確保，社会人・留学生への対応など）

大学院改革（学群からの連続性を踏まえた教育内容の再編整備，リカレント教育など）

② 研究

研究力の向上（←科研費等外部資金の獲得，受託研究など）

研究実績に対する適正な評価

③ 地域貢献

県内就職率の向上，復興人材の育成（←コミュニティプランナーなど），

県内市町村・企業等との連携拡充，ポスト震災復興

大学間及び高等学校との連携，一般県民の生涯学習（公開講座）

④ その他（業務運営の改善・効率化，財務内容の改善，自己点検・情報発信等）

中長期的な資金計画による運営，自己収入の確保，施設設備の長寿命化対策，働き方改革，情報管理の徹底，など

○ 第3期中期目標策定に当たっての事務的留意点（第2期からの変更点）

- ・ 中期目標では，可能な限り法人運営の方向性を示すことにとどめ，実現に向けた具体的方法についての記載は控える。

→ 目標の実現に向けた手段・方法は，中期計画・年度計画等に。

- ・ 中期目標内での項目の重複を避けることにより，目標の全容把握を容易に。

→ 類似項目の集約。

- ・ 項目の構成や名称については，中期計画との関連性が把握しやすいよう，次期中期計画案と調整しつつ整理する。

→ 「第2期と第3期との対比表」を参照



○ 「第2期と第3期との対比表」（資料4-2）

- ・ 重複あるいは類似性のある項目の集約（評価委員会評価及び認証評価機関評価への対応の容易化）
- ・ 項目の変更（構成，名称，項目数）